

# 館報 教育記念館

# No.65

平成17年10月24日発行



「算数なるほど納得！ゼミナール」  
～秋山仁先生のスペシャル道場より～



## 主な内容

- 教育時評 富山県小学校長会 会長 恒田 勉 ..... 2
- 特別展「教育史にみる とやまのあゆみ」展  
企画「算数なるほど納得！ゼミナール」「ダ・ヴィンチ入門教室」..... 3
- 「きらめき未来塾」・「仕事場拝見」事業紹介 ..... 4
- 「夢の卵」育成事業紹介 ..... 5
- 教育記念館部会活動報告  
教育資料部会、郷土先賢部会 ..... 6  
健康スポーツ部会、特別研究部会 ..... 7
- 「子どもの目、自然不思議」写真展、「マセマティカル・ワールド」展  
今後の予定 ..... 8



発行所/財団法人 富山県ひとづくり財団 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2F  
☎(076)444-2000 ☎(076)444-2001 富山県教育記念館 ☎(076)433-2770 ☎(076)433-2771  
E-mail:toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp  
発行人/富山県教育記念館 総長 齊藤和夫 印刷所/株式会社宮越印刷



## 発想の転換を

富山県小学校長会  
会長 恒田 勉

学校教育はこれまで経験したことのない様々な教育改革の流れの中にあります。その諸改革は、私たちの予測を超える勢いと広がりをもって急速に推進されています。これまでに、総合的な学習の時間を新設した学習指導要領の改訂をはじめとして、従来からの組織や制度等について大きな見直しが行われ、学校評議員制や二学期制の導入、人事考課制度の実施、民間人の校長登用、少人数による学級編制等があり、義務教育費国庫負担制度についても見直しを検討されています。また、教育特区による小学校の英語教育の実施、地域住民等が学校運営に参画する公立学校の新しい仕組みであるコミュニティスクール(学校運営協議会制度)の実施も推進されています。このように教育改革の流れは、急速にして止まるどころがありません。

一方、各種の国際的な学力調査や教育課程実施状況調査の結果が公表され、学力改善の傾向はあるものの、読解力の低下、短い勉強時間、そして何よりも学習意欲が低いことが問題点として挙げられています。また、学力低下への懸念やゆとり教育への批判の聲の高まりとともに、総合的な学習の時間や個に応じた指導等のいっそうの充実を図るために学習指導要領の一部改正が行われ、引いては学習指導要領の全面的な見直しの検討にまで至っているところです。不登校やいじめ等の生徒指導上の問題も、依然として学校教育の大きな課題であり、これに加えて、不審者による事件の多発によって児童生徒の安全安心が脅かされ、学校の危機管理への対応にも追われている昨今です。

教育改革の急速な流れに、そして数多くの課題

を抱える状況に戸惑い、困惑してしまい、ともすると、こうした時代の大きな流れや変化を消極的に受け止めてしまいがちになってはいないでしょうか。松下幸之助氏は「時代の流れだから仕方がないといっていたのでは、いつまで経っても状態は変わらない。発想の転換が必要だ。理想をもって、みずから新しい時代を創っていく。この姿勢こそが大切なのである。」と言っています。この言葉から私は、ノーチャイムによる校時運行と、一斉一律の清掃の時間を廃止し、児童一人一人が自ら環境に働き掛ける朝の活動のことを思い起こします。それまで学校においては、チャイムによる校時運行や一斉一律の清掃の時間は、何の疑問をはさむこともなく当たり前のように行われていたのです。しかし、このことを活動する児童の視点から考えると、1時限を超えて意欲的に学習に取り組む児童にとって、チャイムは学習の妨げとなってしまうこと、また、使用していない、汚れのない教室を清掃しなくてはならないことが不自然であることから見直し、新たな取り組みがなされたのです。いずれも伝統的に行われてきたことを、新たな視点から見直すという発想の転換によって取り組まれたものなのです。

急速にして目まぐるしく変化する時代の流れに直面し、これを学校教育を変革するまたとない機会として積極的に受け止めていかなくてはなりません。そして、これからの望ましい学校教育の在り方を展望し、その実現に向けて、伝統や慣習ということを大切にしながらもこのことにとらわれることなく、豊かなしかも柔軟な発想を取り入れていく姿勢をもち、教職員が一体となって特色ある開かれた学校づくりに努めていきたいものです。



## 特別展

### 「教育史にみる とやまのあゆみ」展 好評の内に幕!

当財団では、富山県教育の歴史と特色及び現状を広く県民の皆様方に知っていただくため、「教育史にみる とやまのあゆみ」展を開催いたしました。

ここでは、「寺子屋」「売薬」「立山信仰」「石川県からの分県」「学童疎開」「14歳の挑戦」といったとやまの教育史にかかわる主な出来事を取り上げ、写真や解説、補助資料をつけてパネル展示しました。また、明治8年(今から130年前)の教科書や修身の教科書「幼学綱要」、昭和50年頃まで使用されていた木の机や椅子、県内に6体しか確認されていない「青い目の人形」など、実物もたくさん展示しました。



## 企画

### 秋山仁先生の「算数なるほど納得!ゼミナール」開催

子どもたちの夏休みに「なぜ?どうして?不思議だな?」とその仕組みに好奇心を抱き、自分で試し、そして納得する「算数なるほど納得!ゼミナール」を開催しました。講師は、あの「世界一受けたい授業」にも登場した東海大学教育開発研究所次長の秋山仁先生です。秋山先生は、セミの寿命の秘密やクレジットカードの謎、ふろしきが四角形である理由、きれいなハーモニーを奏でる和音など、子どもたちの日常生活のさまざまな面で密接に関連する教材を提示し、子どもたちに算数のおもしろさを伝えました。参加した子どもたちは、「なるほど納得」と目を輝かせながら算数の魅力に思う存分ふれていました。

## 企画

### 「ダ・ヴィンチ 入門教室」開催

8月25日(木)に、富山県立大学の神谷和秀先生を講師に招いて、「ダ・ヴィンチ入門教室」を開催しました。今回が初めてのこの企画では、「モナリザ」を描いたことで有名なレオナルド・ダ・ヴィンチの発想にスポットを当て、自動車や飛行機、ロケット産業など、今の科学技術の発展に大きく貢献したダ・ヴィンチの思考に迫りました。

入門教室では、レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿を基に復元したダ・ヴィンチの模型づくりをビデオ視聴した後、実際に簡単な橋の模型づくりに挑戦しました。参加した16名の子どもたちは、神谷先生からカッターの使い方や材をうまく組み合わせるコツなどを教えてもらいながら、思い思いの作品に仕上げました。ダ・ヴィンチは、この発想で飛行機の模型を考えたと言われ、参加した子どもたちも「未来の天才に」と一生懸命取り組んでいました。



## 「きらめき未来塾」・「仕事場拝見」事業紹介

財団では、これからの富山県を担う子どもたちに、豊かな発想力や創造力、自己表現力などを育ててもらおうと「きらめき未来塾」を、また、最先端の科学技術で働く研究者たちの息吹にふれ、自分の将来やこれからの生き方を考えてもらおうと「仕事場拝見」事業を開催しました。3年目を迎えたこの事業の開講式では、八木近直塾長（当財団副理事長）が「抽選に漏れた希望者がたくさんいます。参加できなかった友達に分まで多くのことを吸収してください」とあいさつしました。



### 右脳活用道場

講師  
ねじめ 正一先生  
(詩人・直木賞作家)

**ねらい** 直感的なイメージを詩にし、創造力や洞察力を育てる。

子どもたちは、詩づくりを通して、頭で思い描いたイメージを自分の言葉で表現することに挑戦しました。先生から、自分たちが書き綴った詩が本当にイメージしたものとなっているか、直感が活かされているかなどのアドバイスを受け、思ったことを言葉にできたときの達成感を味わいました。



### 思考道場

講師  
秋山 仁先生(東海大学教育研究開発学部長)  
巨澤 恵子先生(入善町立桃李小学校)  
林寺優真子先生(立山町立高野小学校)  
竹内 一先生(富山市立磯坂小学校)  
中田 尚子先生(高岡市立野村小学校)  
鈴木 和代先生(南砺市立福野小学校)

**ねらい** 自分で考える力を磨き、柔らかな思考力や発想力を育てる。

子どもたちは、「すごろくボンゲーム」や「アシリトルマスの謎」、「三画コースター」、「荷物の詰め込み」、「とじ込めちやうぞ!」など、秋山仁先生開発の教材や身の回りにある素材を使い、五感を働かせながら算数の楽しさにふれました。



### ディベート道場

講師  
永田 円了先生(前富山国際大学教授)  
瀧口千鶴子先生(富山中部高校教諭)  
山田 智子先生(富山大学人間発達科学部附属中学校教諭)

**ねらい** 議論を通して、多面的なものの見方や考え方、表現力を育てる。

子どもたちは、「反駁」や「反対尋問」の仕方、資料の活用の仕方などを学び、最後のディベート大会では「英語教育を小学1年生から義務づけるべきである。是か非か」の論題で積極的な議論を展開しました。



### お笑い道場

講師  
三遊亭圓窓師匠  
(社団法人落語協会理事)

**ねらい** 古典落語を学び、ユーモアセンスや表現力を育てる。

子どもたちは、本物の落語を味わい、扇子や手ぬぐいの使い方やしぐさなどを学びました。また、お笑い大会では、落語の個人発表、落語紙芝居の他に大喜利を取り入れ、ユーモラスな答えに会場は大きな笑い拍手に包まれました。



### 「仕事場拝見」事業 8月25日(木)～26日(金)

拝見場所 ・スーパーカミオカンデ、カムランド(飛騨市)  
・飛騨天文台(高山市)  
・東洋ゼンマイ(黒部市)

講師：中田 英樹先生(滑川市立西部小学校)  
養護教諭：矢地 絹子先生(高岡市立平米小学校)

子どもたちは、各施設での体験や見学を通して、たくさんの発見や驚き、新たな興味を抱いたようです。そして、望遠鏡やゼンマイなど自分自身で触れたり、研究員や技術者に質問したり、先生方と交流したりして、最先端の科学技術をより身近に感じました。



# 「夢の卵」育成事業紹介



この事業は、世界の発展に貢献できる子どもの育成を目指して、子どもたちが抱いている将来の夢を後押しし、自分の将来を考えるきっかけづくりをすることをねらいとしています。県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、将来の夢を書いた作文を募集したところ、小学校の部で702作品、中学校の部で128作品の応募がありました。その中から各部2名の児童・生徒が選ばれ、国内の第一人者の下へ2泊3日の短期入門をしました。

## 【体験記】「二酸化炭素を分解する機械をつくる」

横山 寛さん(下村立下村小学校6年)  
 8月10日(水)入門先: 株式会社津製作所・カンボリサイクルプラザ(株)  
 最新鋭のリサイクル複合施設見学、メタンガスを使ったCO<sub>2</sub>の還元装置の開発現場見学  
 8月11日(木)入門先: 京都大学大学院工学研究科  
 CO<sub>2</sub>を有機炭素に変える酵素を必要としない好熱菌を使った研究の見学  
 8月12日(金)入門先: (財)地球環境産業技術研究機構  
 日本全国で取り組まれている地球温暖化防止に関する研究の紹介



体験記  
から

高い温度でCO<sub>2</sub>は壊れるけれど、そのために多くのCO<sub>2</sub>が出てしまうことを教えてもらいました。3日間どこへいってもCO<sub>2</sub>を分解することは難しいと言われていましたが、エネルギーをあまり使わずに分解する方法を考えたいです。

## 【体験記】「新聞記者」

松田 靖子さん(富山市立倉連小学校6年)  
 入門先: 北日本新聞社・共同通信社  
 8月16日(火)北日本新聞社 本社  
 記者の役割や取材方法等についての説明、社内見学  
 8月17日(水)北日本新聞社 東京支社他  
 参議院本会議場の見学、映画「男たちの大和」撮影終了記者会見参加  
 8月18日(水)共同通信社  
 共同通信社の役割等についての説明、社内見学



体験記  
から

「ニュースは一度見たら終わりだけど、新聞記事は100年残る」と言われたことが忘れられません。3日間の貴重な体験で、新聞記者になりたいという気持ちがさらに強くなりました。

## 【体験記】「カメラマン」

岡部 真衣さん(新湊市立新湊南部中学校1年)  
 入門先: (株)テレビ朝日報道局映像専任局長 平間 節氏  
 8月22日(月)専門学校東京ビジュアルアーツ  
 専門学校で「番組スタッフ体験講座」に参加  
 8月23日(火)テレビ朝日・東邦航空(株)他  
 取材用カメラや取材用ヘリコプターのカメラ操作を体験、本番中のスタジオと調整室を見学  
 8月24日(水)テレビ朝日  
 「スーパーモーニング」本番の見学



体験記  
から

キャスターのように目立つ仕事ではないけれど、いろいろな所に行き、頑張っているのはカメラマンなのです。平間さんのお話やテレビ朝日での体験から多くを学びました。私の夢は、この3日間で、もっと強く実現させたい夢になりました。

## 【体験記】「カウンセラー」

長江 麻里さん(富山市立奥田中学校2年)  
 入門先: 聖徳大学助教授 鈴木 由美氏  
 8月21日(日)聖徳大学  
 大学の施設見学、心理テストの体験、研究中の論理療法の紹介  
 8月22日(月)高等学校教育相談部夏季研修会・里和内科クリニック  
 仲間づくりゲーム参加、不安や緊張を解くカウンセラー役経験、里和内科クリニック(診療内科)見学  
 8月23日(火)千葉市教育センター  
 相談部カウンセリング施設の見学、「箱庭療法」体験



体験記  
から

カウンセラーという仕事は、多くの人とかかわっていくことが分かりました。絶対カウンセラーになろうと気持ちが固まりました。夢を叶えることは大変ですが、信じ続ければ実現すると思います。短期入門で、こんな気持ちも見つけることができました。

\*この事業名はノーベル物理学賞受賞者、小柴昌俊さんの「子どもたちには「夢の卵」を持ち続けてほしい」というメッセージにちなんで名付けられました。

# 富山県教育記念館の

## 教育資料部会

### 研究のテーマ 「富山県定時制教育75年の歩み」の調査研究 (平成17～19年度)

平成16年3月、富山工業高校をのぞく全日制の学校から、定時制課程がなくなった。昭和4年(1929年)の5月に私立富山中等夜学校が開校してから、ちょうど75年経つわけだが、現在、募集が停止されているので、史資料が散逸する恐れが出てきた。そこで、富山県教育史にも記載が少ない定時制課程について、今回教育資料部会が中心となって、調査研究に当たる。



### 部会長から

教育資料部会は、28年間、教育資料の収集と教育の歩みの調査・研究を継続してきました。それは、全国でも数少ない教育博物館としての重要な使命です。小さな教育資料といえどもその一つ一つに先人達の教育への情熱が溢れています。まさに「教育県富山」を作り上げてきたものばかりです。しかし、昨今、それらは加速度的に失われつつあります。それらを県内くまなく調査・研究し、県民に知らせ続けてきました。

現在、部会では、一つは「富山県定時制教育75年のあゆみ」に取り組んでいます。この始まりは、昭和4年に富山県教育会が設置した私立富山中等夜学校です。昼間に働かし、夜勉強する学徒

の向学心に応えるためです。それは、まさに「民」の力によって始まったのです。8年を経て公立の独立夜間中学校に成長しますが、大都市でもごく少数であり、地方ではおとんどない状態ですから画期的なことでした。以来75年間、平成16年3月、富山工業高校を除き、全日制高校から定時制課程は全てなくなりました。今、その貴重な足跡をしっかり記録しようとしています。もう一つは、2階の常設展示のCD-R化です。富山県教育史を広く県民に身近にとらえてもらうため開発中です。この事業を通して、これからの博物館としてのあるべき一つの姿を提案したいと思います。

## 研究組織

役職	氏名	所属先
顧問	須山 盛彰	
部会長	布村 徹	富山県立月岡中学校
副部会長	竹島 慎二	県立富山南高等学校
専門員	城岡 朋洋	県立高岡高等学校
専門員	白川 裕美	県立富山中部高等学校
専門員	原田真由美	県立石動高等学校
専門員	古尾真智子	富山県立上桑小学校
専門員	相川 仁	富山県立寒江小学校
専門員	中川 智子	県立大門高等学校
専門員	谷沢 修	県立魚津高等学校
専門員	裏野 哲行	県立上市高等学校
専門員	丸山 格司	県立木橋高等学校

## 郷土先賢部会

### 研究のテーマ 郷土が生んだ先賢の顕彰(平成18年度顕彰者調査)

今の展示形式になったのは、昭和62年(1987年)度の記念館改修からである。この研究には、10名の専門員が当たり、顕彰者の選定、調査、資料の収集、解説文の作成、展示の工夫などの作業を行っている。単に文献記録だけで紹介するのではなく、顕彰者の生家や子孫の方の家まで足を運んで貴重な資料をお借りしたり、関係各地で調査や取材に当たったりしている。



### 部会長から

郷土先賢部会といえば、開館以来、本県郷土史研究・教育における絆々たる方々が携わってこられた部会、全くの門外漢の私のような者が因らざる部会長を引き受けすることになってしまい、これはどうしたものかと困惑しております。

ある日、そっと郷土先賢室を訪ねてみました。他に見学の方の姿はなく、ゆっくり心の赴くままに、顕彰されている6人の方々とお話ししました。

明るく、ビジュアルに改装成った展示室、現在の展示は第15回、1回からの顕彰者は100名を超えるに至っています。この郷土に生まれ、成いは全国に名を成す大きな業績を残され、成いは然々

と郷土の人や文化の発展に尽くされ……いづれも一筋の道を貫いた方々、——ここに「とやまの叡智」がある——過去の顕彰者の方々全員を紹介する大きなパネルの前まで来たとき、何か温かく、熱いものに包まれている自分に気がきました。

現在、明年秋からの第16回の顕彰者展に向けて顕彰者選定等基礎的な調査に取り組んでいます。この郷土先賢室に流れる同じ風土に育まれた者としての親近感——いや共感に近いもの、しかも顕彰されている方々からの——を通して、人は苦勞、苦心を重ね、そのことを惜しまず、そうして自分に正直に對面し、己の力を謙虚ながら存分に注ぎ、生き抜くものだ、明日を担う子供たちにはぜひ感じ取ってほしいと思っています。

## 研究組織

役職	氏名	所属先
顧問	松平 義隆	樹心幼稚園
部会長	中村 啓志	富山県立三郷小学校
副部会長	戸田 哲彦	富山県立神通碧小学校
専門員	森田 洋子	小矢部市立石動中学校
専門員	村中 祥華	高岡市立南聖中学校
専門員	北川 泰秀	水見市立宮田小学校
専門員	松本 純	富山県立東部中学校
専門員	白江 勉	砺波市立新波東部小学校
専門員	関原 秀明	高岡市立芳野中学校
専門員	平野 強	富山県立南部中学校



富山県教育記念館には、博物館機能を備えており、4つの専門部会をおいて資料収集や調査研究を行っております。ここでは各部会の活動を紹介します。

# 4つの部会紹介

## 健康スポーツ部会

**研究のテーマ** 「富山県の学校給食90年の歩み」の調査研究  
(平成17年～20年度・20年度は特別展を予定)

県内での学校給食の始まりは、大正3年(1914年)の冬期温汁給食である。その後、昭和初期の欠食児童や虚弱児童を対象とした副食給食が始まり、貧困児童救済を目的とした国庫補助による学校給食が制度化した。やがて、学校給食法が制度化され、児童生徒を「食」の面から支える学校給食が今日に至る。新しい給食の役割が求められる今、富山県の学校給食に関する調査研究を行う。



**部会長から** 21世紀を担う子供たちの健全育成が各界で叫ばれています。その中でも最近「食育」に関する関心が高まっています。

家庭での食生活の変化に伴い、インスタント食品の利用、糖分・塩分の取りすぎ、柔らかい食べ物志向等による生活習慣病や虚弱的歯牙・下顎の形成など、多くの課題が生まれてきています。それらの解決の一つとして、健康スポーツ部会では平成17年から19年までの3か年をかけて、児童生徒の食生活がどのように変化し

てきたのかを検証してみたいと考えています。とりわけ富山県の学校給食の歩みを調査研究することにより、飽食の時代といわれる現在の食生活の改善につながると考えています。また、学校給食が果たしてきた人づくりについても考察したいと考えています。

現在、部会では、各学校の給食に関する資料や過去に給食で使った品物等を収集し、写真として残そうという作業を行っています。各自治体、学校、諸団体でこれらの資料がありましたら、ぜひご協力いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### 研究組織

役職	氏名	所属先
部会長	森本 清隆	富山市立上滝中学校
副部会長	永田 眞理	富山市立清水町小学校
専門員	根塚 静枝	富山市立広田小学校
専門員	山本 悦子	県教育委員会福利保健課
専門員	清涼 優子	富山市立大広田小学校
専門員	野村久美子	南砺市立福光中部小学校
専門員	白川 洋子	富山市立山室中学校
専門員	林 裕子	富山市立月岡小学校
専門員	笹原 康子	富山市立堀川南小学校

## 特別研究部会

**研究のテーマ** 「自然に支えられた富山の教育」の調査研究  
(平成17・18年度)

富山県は、全国でも有数の多雨、高湿地帯で、また冬期間は深い積雪に覆われ、厳しい自然条件の中で生活の営みが続けられてきた。産業は、自然に支えられて発達し、教育も独特の発展を遂げてきた。自然とのかかわりを大切にする精神は今日に受け継がれ、また、富山の教育を大きく支えている。「山」「風」「草木」「川」「海」という自然を利用した様々な精神や文化は、富山の教育に息づいている。科学離れが指摘される昨今、自然に支えられた富山の教育を見つめ直し、21世紀の教育創造に資する。

**部会長から** 2002年、田中耕一さんのノーベル化学賞受賞によって、富山の理科教育が脚光を浴びましたが、理科離れが指摘されている昨今でもあり、改めて理科教育の必要性が見直されています。

富山県は、全国でも有数の多雨地帯であり、冬期間は深い積雪に覆われ、人々は厳しい自然環境の中で生活を続けてきました。一方、高い山から流れる豊富な水は、稲作を中心とした農業に欠かすことのできない恵みの水であり、水力発電による工業の発展にも大いに利用されてきました。

このたび、富山県教育記念館の特別研究部会では、富山の教育が豊かな自然とどのようにかかわってきたかを探ると共に、自然を生かした富山の教育の取り組みを調べ、これからの教育の発展に資するものになりたいと考えています。

部員16名でどれだけ研究を深められるか不安ですが、各学校や関係各位のご協力をいただきながら、平成18年度末までに研究の成果をまとめたいと思っています。

### 研究組織

役職	氏名	所属先
部会長	栗山 伸治	富山市立西田地方小学校
副部会長	安井 俊夫	富山市立城山中学校
専門員	吉川 桂子	富山市立水橋西部小学校
専門員	山本 茂	富山市立山室中学校
専門員	半井 優子	富山市立清水町小学校
専門員	新夕真希夫	富山市立芝園小学校
専門員	内田 浩子	富山市立倉垣小学校
専門員	鍋島 一仁	富山市立岩瀬中学校
専門員	白石 豊	富山市立芝園中学校
専門員	西田 誠	高岡市立志貴野中学校
専門員	松島 亨	富山市立新庄中学校
専門員	林 留美子	魚津市立西布施小学校
専門員	森内 裕之	黒部市立生地小学校
専門員	斎藤 真紀	富山市立具井町五番町小学校
専門員	佐原 孝信	水見市立南部中学校
専門員	田島 寛	砺波市立廣瀬小学校





## 不思議が勢揃い!第2回「子どもの目、自然不思議発見」写真展開催

小学校1年生から中学校3年生を対象に、自然界の不思議を写した「子どもの目、自然不思議発見」写真展を開催しました。2年目を迎えた今回は、100点を超える作品が寄せられました。オニヤンマやアゲハチョウの羽化する様子やサギのヒナのあくびをする瞬間、オジギソウの不思議、夕日の沈む瞬間など時間をかけて写した作品が目立ちました。また、「総合的な学習の時間」に撮られた写真や科学部(水見市立北部中学校)の結晶に関する写真、家族旅行中に撮られた写真など、多彩な作品が勢揃いしました。



「アゲハの幼虫とらめっこ」



「サギのヒナの大きなあくび」



「霧から広がる結晶」

## 「マセマティカル・ワールド」展にたくさんのご来場ありがとうございました

算数や数学のもつ魅力にふれてもらおうと、子どもたちの夏休みの期間中に「マセマティカル・ワールド」展を開催しました。今回は、東海大学秋山研究室や北海道オホーツク数学ワンダーランドにもご協力いただきながら、実際に手にふれたり操作したりできる教材をたくさん用意して、訪れるみなさんに楽しんでもらいました。期間中「荷物の箱詰め」という雑問に多くの子どもたちが挑戦し、多彩な詰めこみ方法を考え出していました。

◎雑問「荷物の箱詰め」の正解者は、次のみなさんです。

〈正解者〉

黒田こうきさん、中島耀葉さん、中島まこさん、奥村亮さん、たつざわはるるさん、上野克典さん、満山直樹さん、野上翔さん、滝口直さん、浅井春菜さん、寺島凌介さん、大村捷一郎さん、有沢尚平さん、龍浦弘城さん、能坂健司さん、土いゆうかさん、榎精由花さん、たかどうゆうまさん、品川由理奈さん、川崎橋文さん、川崎智紗さん、高野詩葉さん、松田靖子さん、山田尚輝さん、沢越凌さん、沢越耕さん、石瀬直さん、浜岸奈央さん、松田秋さん、紺井勇志さん、樺田雄介さん、川端真至さん、橋川まやさん、梶川芽生さん  
—おめでとうございます—



### 今後の予定

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| ◆第21回教職員厚生会富山支部会員作品展 | 10月21日(金)～10月30日(日)   |
| ◆第23回みんなががんばってます展    | 11月4日(金)～11月20日(日)    |
| ◆第17回富山県造形教育作品展      | 11月25日(金)～12月9日(金)    |
| ◆中学生、高校生、高専生のロボット展   | 平成18年1月13日(金)～2月5日(日) |
| ◆第18回富山県中学校美術展       | 2月12日(日)～2月27日(月)     |
| ◆富山大学学生卒業記念書展        | 3月2日(木)～3月12日(日)      |

平成16年度の様子から



「みんなががんばってます展」



「富山県中学校美術展」

※平成18年1月に予定しておりました「第20回自然から学ぶ写真展」は、都合により開催できなくなり、口折小館に変更になります。



### あ と が き

「自然の叡智」をテーマにした愛・地球博が閉幕しました。21世紀の未来に思いを馳せ、次代を担う子どもたちに夢と希望と感動を与えました。その中で、NPO団体や市民の方々に参加するという運営方法が高く評価されました。

当館でも「体験・発見・感動」をテーマに、特別展や恒例展、道場や教室など子どもたちを対象にした事業のほか、県内の小中高の先生方のご協力の下「とやまの教育」に関する調査研究、資料収集活動を行っています。当館では、子どもたちを育む部分と地道に調査研究に取り組む部分を大切にしながら、今後も皆様へ愛される館の運営に努めて参りたいと思います。

一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。